慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ミルの社会思想に就て
Sub Title	
Author	瀧本, 誠一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.11 (1924. 11) ,p.1564(26)- 1578(40)
JaLC DOI	10.14991/001.19241101-0026
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19241101-0026

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

0 社 會 思 想 12

澗

の E 主 18 な 義」と 0 云 3 CA 題 す T 3 會 r F 主 讀 3 T は 題 す 勿 意 故に n 及 ば 左 祉 n 余 自 12 會 T は 學 質 6 0 寸 È 如 12 N) 0 門 大 13 Fi T な 0 3 放 0 又 个 で 丽 10 ح 大 た 依 は H な 12 3 2 C 0 τ 3 第 3 出 25 學 T 版 大 は 3 著 E p; 於 n 得 る で 72 な 會 7 濫 3 Z た 蛛 經 る 祉 想 2 嚴 12 53 か カジ

13 3 W は 其 0 父 0 親 友 了 3 ~" ン X 4 Ø 偷 理 立 法 論(Intro

(utilitarian society) 及 Principles Z て、盆 及 τ 少 ž 5 め legislation) Č 來 仰数 主 張 义 向 ゥ --此 Ŀ 八 τ J. 發 <u>-</u> 大 15 9 は 年 72 政 P 只 0) 治 た ス Z T. 1 12 あ 年 す 0 基 r 篤 礎 ば 9 具 7 0 E C 0 と 企 ---想界に 意味 ح L 12 與 13

F ح T 第十八卷 る ح 25 بخ 8 思 利 0 的 かず 0 3 0 的 度 0) 原 E 交 際 因 し、常 3 E 相 功 は る己 明 初 利 12 E つ 熟 心 F から 12 し、べ 12 對 8 主 す 0 3 3 る E 7 0) 1: 學 隣 居 反 歪 說 人 2 對 に著 つたの 12 嗣 72 論 施せ」 3 10 を 大 ン 聞

(一五六五) ñt 會思想に就て

7, Philosophy 0 て 文 3 影 に及 力 30 な 0 w 0 12 題及 ば 及 る 内 ぼ 史 學 7 的 T 名は Principles 0 湝 ミック 質 大著 3" だ は 斯 人道 ン 12 U Ŀ 結 的の る of Political Economy with 付 12 0 定 3 τ かず 要素 È T 原 0 名 其 τ 通 を誘 *ග* ර 論に於 0 b 代 濧 0 0) 入 0) 12 7. L 意 下 7 15 ム・ス 12 12 1 は E 的 で 3 Other Branches some 主張 斯 0) あ 云 15 ス 9 U ッ of their applications to Social 0 し て、「「 オド b であ 居 範 12 5 來 ッ 圍 か、且 3 ح D> " つ 8 25 72 of ス、エ 0) 12 狭 3 故 9 の三字 Ø 小 其 者 の題 t ± t 理 ず、之に 學 弘 12 Ø 說 0 成 派 名 E 50 3 二八 定 學 8 書 Ø ¥ 通 か 抓 ス 区 大 說 0 底

つて τ は は h 純 بع ス E 72 0 相 (Subtitle) to 會 共 E 12 0) 譋 者 外 和 0 Ш せ 岐 to 路 し 於 72 め 12 3 0 τ K 完 0 企 τ 71 を表 次 る 考 經 7. 學 of. ۲, た る 大 其 0) 成 結 0 12 果此 質際 4 h E 0 B 企 Ø) で 省 鄶 説を 0) T で に 於 打 3 d)

篇(Book あらざ ₹ 8 3 第十八卷 配 jν 0) じの は す 觅 如 か は 大 何 (二五六七) 2 目 0 틍 1. 定不 Y は 邌 U 17 更 物 0) 分 b 0 少 勛 配 h 0 法と見 か か は 3" 法 ルの社會思 12 玄 め る 則 3 左 具 法 做 χ_{λ} 17 的 に支配 祉 右 其 Œ 則 L 0 72 世 0) ä 0) 經 原 3 る る 法 17 0) هم b 0 後 O) 而 省 る、即 ど あ あ 7 9 分 つて、人情、習 て、人 彼 定 と 沙 4 る 此 ح 葍 第二 處 0) 力 9 0 す R で 1 篇(Book 12 U n 慣、歷史、立 化 は 分 别 前 之を 依 ば 15 5 二九 生產 つて 者 は 3 第 は 奈 H 1

云 る か 究 0) T で 學 is 方 τ は あ 왮 法 會 3 功 で r 3 3 道 うが 學 な 執 r 的 3 b 史 け 行: 丽 ¥ 吹 12 2 17 合 居 き込 要 於 ば か 0) 素 τ II! 自 13 0) み 老 會 ₹ か 6 あ ば 置 法 72 な r な る ίÌ は 究 彼 3 小 0) から τ も、社會 疑を 0) 同 0 紀 Ŀ 學 的 濟 0 容 0) 72 0) 0 12 父 方 法 3 學 3 0 0) 江 0) 别 思 理 步 大 は で E 想 あ 1/2 0 る、是 採 È は 定 17 な じ、多 貢 學 大 0 か 0 n 學 な Z T B 発 0 2 た と 0 12 カコ 曾 149 3 n を脱 哲學 2, 大 3 功 評 を る đ) せ る U T 0 て、重 で τ 與 ح 75 30 學 め 其 Z は る Œ ず の 要 12 12 0 る

3 夫 人 1: 人 0 道 賜 で 的 あ 0 3 要 素 かっ の r 如 誘 入 (思 し はな n 3 現 は 1: 彼 v n æ 自 ン・バ 身 0 ァ 叨 ン 言 0 す 3 如 \$ 所 II. 17 依 女 性 n 0 は

を極 biography 247) 町 所 V 重 用 女 6 0 12 大 是 力 6 方 的 ず 0) な に まで n \$ 歪 n な τ 3 3 で b な 絕 3 つ 大 ど 對 女 12 ч 17 5 1 思 v 云 想 論の 3 挨 3 引 ح 9 ጀ 3 思 て (English 0) 7 は 思 和 通 ч. ラ る、ミ 想 は て、歸 は 却 ~ 1 夫 0 忽 thought 必 0 2 ħ 0) 7 τ 0 用 要 復 演 あ 342) 人 3 で T 女 る 0) ے あ 丽 7 ラ 分 る 35 ح 方 ጀ は **と**同 势 單 ラ 9 V 上批 72 際 0 言 13 ラ な 1 الدر) Auto-學 評 る 6 博 は 1 夫人 し居 K 分 理 3, な 力 を ソ 0

0 知 所 鼢 旣 ミルの社會思想に就て

第十八卷 (一五六九)

3

では

3

は

天性

甚だ同

情

12

富

B

る

熟

1111.

男

子

T

あ

2

72

か

共

の頭

腦

#

る し自 n 1= 12 か つ 25 め は 3 £ 彼 か 6 2 12 r か b b 12 3 自 か あ 72 ---Ľ 年 死 父 8 211 其 3 12 0) بح 自 素 E 頁 量 音 b 3 如 认 P h 0 ぶ 3 3 0 上 0 ブ ^ で 後 込 3 0 ラ 人 及 0 可 生 づ G 最 12 7 自 (utilitalianism) 12 2 る 12 かう 己 大 快 徴 る 3 公 Political 0) 0 理 Ļ 樂 L 12 Æ 0) ح T 湓 は L 12 8 Economy F 唯 12 ---味 0) 點 72 ₹. 主 る B 3 间 張 原 張 分 7 上 IV か 9 諭 智 0 in England 934)~ 0) ---E 义 72 0 大 \$ 0 般 無 孙 始 る 大 る 根 0) Λ 味 8) 12 0 淇 [11] 間 冷 詩 本 0) 必 淡 瓜 題 雕 歌 要 0 15 想 10 會 y 0) III あ 3 0) 5 著 E 6 質 功 3 知 め 他 ず 同 作 利 10 愛 深 0 r 训 ず 主 E 主 T, 3 0 α v 義 み、其 な 居 性 10 0 đ, 7 É 17 ι 質 訟 す 4 思 0 1))] E 3 5 想 0) 3 ど 17 す 高 所 す 有 τ 沈 20 [ii] る 父

說 及 天 0 る 祉 2 は 於 V 十八 氽 T 3 大 0) で 0 あ B 五七二 τ 文 5 6 å Įζ (Ethology) ば 3 要 思 於 2, E 3 Z 想 τ 3 べて Ø 1: な 其 E 12 E 分 3 で 0 0 で 自 要 到 C 大 あ 分 す の社會思想に就て 2 6 分 13 8 12 0 智 ば 0 8 學 A. 玄 著 12 入 ح す E かず 72 12 Ê テ は 3 3 言 6 4 3 點 B 12 ラ 3 から 0 0 夫 カジ ح T A 0) 0) U Ę 村 敘 7 郊十 12 居 17 6 3 3 な つ す ざ 1. 9 12 9 白 ブ 3 道 3 7 で 3 る 12 べ ۲. E 的 ど HH 自 Ĩ 玄 0 る 0 0) 3 0 Ž 要 出 淵 富 0 理 し

3 自 Discussions) B 作 自 3 9 τ ح 8 0 L T は 0) ď は ح T 0) 如 第二 3 0 要 τ C 7 分 τ t る「婦 を 夫 る る n 0 人 文を 12 N 4 の あ 讀 る C す 3 放っと る h で 事 故 12 r 12 n す は \$ 是 3 大 成 其 12 等 から 涧 程 事 如 0 0 12 質 事 8 宜 集 E 大 文 割 17 凡 ラ (Dissertations は 徵 引 K 家 ラ τ 7 0 る **%**> 15 夫 手 意 見 15 嫦 人 3 U τ 成 0 w 人

12 T 0) 出 子 3 質 C 證 0 72 ば 0 哲 3 劉 K 12 b> 12 τ 0 で D, 2 あ τ 3 0 攸 力 12 あ 人 \$ C 0 取 道 3 L Ġ b 的 <u>د</u> ソ ~ 0 3 K ゥ \$ L 以 で b 素 0 な * み は は de 極 で 入 次 L あ 6 C め ず 3 前 12 T 自 當 自 12 3 b は 時 3 由 交 12 N 遊 Z < E L 215 12 採 9 る かず 用 胸 如 天 / す あ ク る Ż = 0 12

所 學 謂 る Ø 最 な 12 所 Sciences) = 終 3 3 長 0) 0 r 良 多 ž τ 明 讀 13 加 力 35 す す 言 3 * 7 る る T す 3 最終 自 Algebra) 前 1 3 3 日 0 8 3 12 旣 τ 0 12 b 憚 第 は 全く 彼 氽 p 12 篇 す **%** 13 6 13 りと 大 = 意 ず、然 す 脫 理 17 り」と(自 見 稿 學)の 3 ラ G 明 を採 Ä 女 T n 見 る 3 が論 用 本 傳 12 0 义 ----付 0 は 力 3 73 學 倘 72 3 四 理 ع 學の £. 3 0) 7 說 Ø E 余 h b 頁 理 で、実 包 か 0) 0 中 論 21 本 は 方 b 合 理 12 定 多 定 す 註)即 出 (Hypotheses) 0) る 0 0 V. 適用 才 色 第 0 ţ 1 0) 廽 重 玆 事 る ----部 を示 1: (Logic 12 要 卷 分で 關 學。と ス 13 \$ は t 3 し b 3 3 0 最 冷 し 13 あ

第十一號

第十八卷

○五七三

ミルの社會思想に就

T 12 更 分 L 著 基 τ 性 T 3 1: かず 諭 72 る 5 Ŀ 见 な B 0 重 12 0) 大 ع 13 3 る 形 C 0 ۲ þ; 定 C ح 3 す は から 0 梦 學 ۲. 3 日 誘 E Ŀ ح w 原 知 廣 は から \$ 自 を 本 5 3 12 會 的 認 す 成 3 12 的 S. は 0) 3 瓜 72 72 3 3 0 學の 證 ~ L 13 分 で 哲 は E 9 配 あ 質 F 0 ሯ 0 3 12 六 203 0 證 つ 云 法 最 法 7. 哲 13 0 は 则 M 15 初 其 る ね は ح 0 0 8 72 配 F 蔽 良 法 3 る W 0 發 太 1 E ¥ 主 E 法 . 可 達 用 を二 企 4 G જે £ す 0 Ø r 8 ど 3 3 る 但 思 す 白 2 72

3

其

0

論

理

學

D

第

六

篇

13

於

2

屢

k

3

2

ŀ

1.

對

す

3

稱

賛

0

言

E

發

例

^

又歷 \$ 的 3 处 12 圈 r 3 12 試 法 \mathcal{C} 法 r 依 方 0) 充 9 た 72 3 0 τ 12 か 3 5 用 0 (._ す は ---つ 要 r 0 3 M す 0 立 目 5 的 8 意 0) 態 3 τ を 法 祉 を 見 智 全 達 知 は 後 會 然 Ġ す 脫 ず 3 却 I بح 0) 彼 す 寸 4 か ح 3 3 0 來 ع 0 r 第 か 2 2 τ で 72 支 會 0 あ 人 办 るっと は τ で Ø) あ な るしと あ 云 性 3 質 3

大 13 る 1-~ 3 17 は (一五七五) 明 瞭 所 で 1: あ 依 5 n う、然 3 n IV ዩ ルの社會場想に就て 0 B 社 勿 會 論 的 主 思 3 想 0 根 T 本 Ţ, は 4 **1** L 人 0 0 第十一號 說 12 1 歸 基 因 する ζ. 三七 8 b

0) E 72 同 N を τ 會 E 8 ح 主 は 12 12 な 3 to 以 し(三)遺 (Gide 0 C す る で 步 n あ and 蓙 h τ 9 ξ Rist:-History て、其 E \$ 氽 權 希 0 0 5 12 5 事 し(三)地 言 T 制 E あ K 限 る 3 圣 Economic doctrine 72 3 N 稅 加 の社 す 0 ^ 12 τ 重 サ T 角 加 會 富 ン・シ 彼 Ě 0 義。ど p, 0 不 依 祉 T 369 या 9 ン 題 あ 會 τ 均 T 參考)大 3 思 す * 2 想 る 1: 0 論 少 3 多 集 體 せ 自 ス ん < E 右 3 は 見 增 쩨 5 n ረ **D** 等 r 産 8 1-12 主 者 0) 公 3 0 張 K 意 0 IV ど

3 E n 5 訛 r 叉 方 T から __ 有 至 T な め 3 あ 左 3 τ ď 廣 ح 云 如 V < は 之 N を 0 ね 3 W 其 達 な 0) 評 3 かず す \$ 0) 720 は 6 而 11 適 切 思 で T 想 0 あ 此 12 祉 3 0 鼤 會 ح 化 點 思 想 12 3 ず n は 3 12 何 3 か 1 < 攸 は 影 0) 12 響 常 國

C

12

8 用 0 白 人 ፘ は 3 時 3 濄 全 0 3 る T 蓬 歪 Y 2 C 15 9 7 る 3 で 3 る 影 ح あ 0 云 3 則 7 ifu b ٧. 5 逐 بح 彼 究 31 此 0 0) 二等 Ø す 13 150 新 3 テ 3 般 T 共 世 i: E 3 人)は 觀 13 T ゲ 0 學 念 9 T 之 つ 13 0) 問 3 る 0 12 4 F 3 3 主 0 題 で 1 12 C あ 於 3 苁 多 隨 0 3 7 少 ひ 0 T 適 Ø 朋 世 炒 力 す

C 13 ti 13 3 0 0 生 の社會思想に就て ح Ŀ 3 0 發 7 調 明 長 \$ 足 B 續 0 N Z 步 行 圣 は で 13 れ、遂 あ 3 宛 が、我 13 b 之 b; から 3 經 爲 17 濟 め 理 學 12 b 偷 學 뫮 亦

第十一號 三九

0 なる事、随て其の れ、斯學を研究する ð 版六三一 で人間の 3 歪 産分 9 0) 0 及 性質が 消費に である 四〇

分)は 华(生 世紀の後 Ø) 部分

録

社會と自然との平衡關係

こ、生産力

之に適應する所の真質の基礎は、 所に遵へば、 である。 つて以て立つ所の、 に於て入り込む所の一定の必然的の彼等の意志 から獨立したる關係。 一定の發展階段に適應する所の生産關係の總和 Karl Marx が其の唯物史観の公式に於て説 物質的生活の生産方法は一般に社會的 法制上及び政治上の上層建築が據 又一定の社會的意識形態が 即彼等の物質的生産力の 彼等の生活の社會的生産 社會の經濟的

社會的關係を變化するが故に、 ം ? (Marx: Zur Kritik der Politischer Oekonomie 政治的精神的の生活過程を條件づけるものであ 化し、又生産方法を變化すると共に總て彼等の なる生産力を獲得すると共に其の生産方法を變 Vorwort. LV) 斯~て Marx に依れば人間は新 合の生産力とは如何なるものを意味して居るの 力の變動は社會一切の變化の根本的原動力であ 斷言して居る。 「殆ど總ての 批評家又は 註釋家 である乎又如何なる關係に於て生産力の變化が ると言ふ事が出來るのである。 かの 觀に對する幾多の批判的文献は此等の諸點に關 化すべ言ひ得られる平が問題でならなければな 生産方法を變化し從つて一 する解釋に於て甚だ區々であつて、 Tugan-Baranowsky の如きは敢て次の如く のは當然である。 然るに Marx の唯物史 切の社會的關係を變 畢竟社會の生産 從つて先づ此場

社會と自然との平衡関係と「生産力」

第十八卷

(1) 五七九)